

# 子どもを犯罪者に育てる方法



とうごう じゅん

子どもを犯罪者に育てるのは簡単です。子どもに善悪を厳しく教えればよいのです。え？ 分からないって？  
—ご説明しましょう。



あるところに、お母さんと子どもがいると思ってください。お母さんは、毎日、子供に善悪を教えています。



ねえ・・・、  
もし悪い子になったら、  
お母さん、僕のこと嫌いになる？



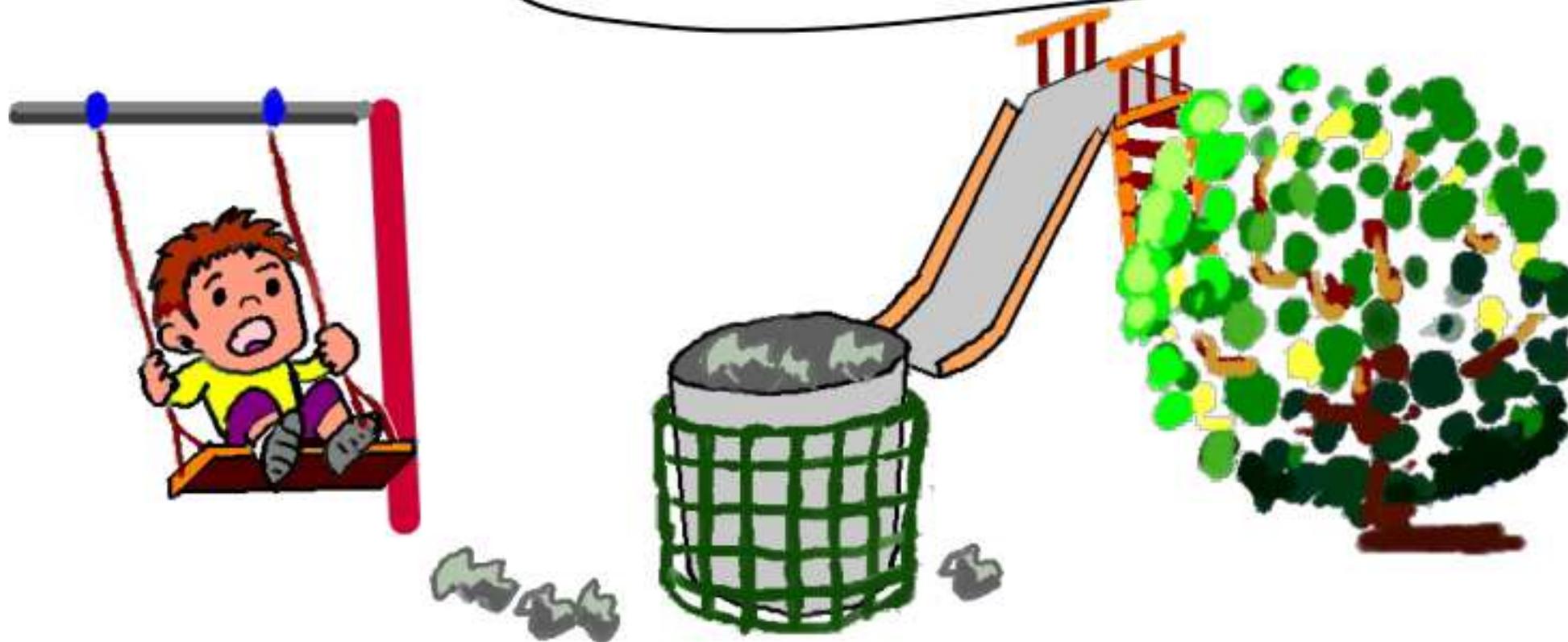
もちろんよ！  
悪い子なんか大嫌いよ！  
だから人殺しをしちゃダメよ



子どもは、お母さんに嫌われたくありません。人殺しをしないことに決めました。

ある日、お母さんが子どもに厳しく言いました。

公園でゴミを散らかすのは悪いことなのよ！  
悪い子は嫌いよ！



子どもは、お母さんに、嫌われたくありません。公園でゴミを散らかさないことに決めました。

ある日、お母さんが子どもに厳しく言いました。



タバコを吸うのは、悪いことなのよ！  
悪い子は大嫌いよ！

子どもはお母さんに、嫌われたくありません。タバコを吸わないことに決めました。

さて、この程度では、まだまだ厳しさが足りませんね。 —さあ次は、子どもが何か失敗したら厳しく怒鳴りつけましょう。



—さあ、もうこれで、十分です。

ああ、僕は悪い子になってしまった！  
お母さんは悪い子は嫌いなんだ！



その子には、もう「悪いこと」をしない理由が一つもありません。ゴミを散らかしたり、タバコをすったり、人殺しをしたりして、立派な犯罪者に育ってくれるでしょう。



でも・・・、

お皿を割ったら危ないこと。ゴミを散らかすと汚れること。タバコを吸うと病気になること。人を殺すと辛い思いをすること。そんな風に、「してはいけない理由」を、丁寧に教えていては、子どもを立派な犯罪者には出来ません。

**子供を犯罪者に育てたいなら、  
教えるのは、**善悪だけ**にしてください！**

## あとがき

絵本「子供を犯罪者に育てる方法」は、善悪の錯覚が、いかに少年犯罪の原因となるか、その心理をテーマに執筆したものです。

善悪という言葉／観念は、潜在意識レベルで人々の心に働きかけ、複合的な錯覚を生み、その錯覚は、犯罪、心の葛藤・抑圧、人々の分裂、争い、いじめ、戦争、テロなど様々な悲劇の直接・間接の原因となります。（詳細は弊著「善悪中毒」をご参照ください。）本絵本は、そうした悲劇を地球上から無くすことを目的に執筆したものです。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。

また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

[www.j15.org](http://www.j15.org)

©Jun Togo 2005